

英文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
英文学特論Ⅰ	現代劇的独白と抒情詩	2	TINK JAMES MICHAEL	前期 火曜3限
英文学特論Ⅱ	現代小説:ポストモダニズムのその後	2	TINK JAMES MICHAEL	後期 火曜3限
英語文化論特論Ⅰ	21世紀の分断された世界 ／社会と英国カルチャー	2	大田 信良	前期 集中講義
英文学・英語学論文作成 法特論Ⅰ	大学院生のための英語学 術論文執筆	2	TINK JAMES MICHAEL	前期 木曜2限
英文学・英語学論文作成 法特論Ⅱ	大学院生のための英語学 術論文執筆Ⅱ	2	TINK JAMES MICHAEL	後期 木曜2限
英文学研究演習Ⅰ	研究発表の実践	2	大貫 隆史、講師(非)	前期 金曜3限
英文学研究演習Ⅱ	研究発表の実践(発展的)	2	大貫 隆史、講師(非)	後期 金曜3限
英語文化論研究演習Ⅰ	Raymond Williams, People of the Black Mountains I	2	大貫 隆史	前期 金曜2限
英語文化論研究演習Ⅱ	アカデミック・スキルとしての 精読	2	文学部教官	後期 金曜2限

科目名：英文学特論 I

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM12305, 科目ナンバリング：LGH-LIT610J, 使用言語：英語

1. 授業題目：現代劇的独白と抒情詩

2・授業の目的と概要：本講義では、19世紀から現代に至る英語劇的独白の歴史を考察する。詩中における語り手の虚構性を強調する叙情詩の一形態である独白は、ロマン派詩の誠実さと現実主義小説の共感性への反動として出現し、ヴィクトリア朝詩歌の主要な革新の一つとなった。20世紀には読者を疎外するモダニズムの手法となり、戦後期以降は社会市民や自由主義的主体のアイデンティティを探究する手段となった。本講義では、これらの詩が如何に語り手の存在感を喚起し、それが文学の作用理解に及ぼす影響を考察する。

3. 学習の到達目標：学習目標は以下の通りです：(1) 様々な英語詩を読み理解すること；(2) 文学史の文脈と現代詩の批評的側面の一部を紹介すること；(3) 英語による文学研究の議論・分析スキルを向上させること

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: はじめに
- 2: 劇的独白の起源：アルフレッド・テニスン卿『ティトノス』
- 3: ビクトリア朝の詩：ロバート・ブラウニング『私の最後の公爵夫人』および『ポルフィリアの恋人』
- 4: ビクトリア朝の詩：ロバート・ブラウニング「フラ・リッポ・リッピ」
- 5: ビクトリア朝の詩：エリザベス・バレット・ブラウニング「巡礼者の岬の逃亡奴隷」
- 6: ビクトリア朝の詩：クリスティーナ・ロセッティ「修道院の敷居」
- 7: 後期ビクトリア朝の詩：オーガスタ・ウェブスター「漂流者」
- 8: 世紀末の詩：エイミー・レヴィ、「ザンティッペ」
- 9: 世紀末の詩：ジョン・デビッドソン、「週 30 ポブ」
- 10: 20 世紀初頭の詩：シャーロット・ミュー、「祝祭」
- 11: モダニズム：T.S. エリオット、「J. アルフレッド・ブルーロックの愛の歌」
- 12: 戦後アメリカ詩：エリザベス・ビショップ「イングランドのクルーソー」
- 13: ポストモダニズム：ジョン・アッシュベリー「ハリウッドのダフィー・ダック」
- 14: 現代英国大衆詩：キャロル・アン・ダフィー「サイコパス」
- 15: 現代実験的叙情詩：アリス・オズワルド「ティトノス」

5. 成績評価方法：プレゼンテーション 25%最初の小論文 25%最終小論文 50%

6. 教科書および参考書：教科書は不要：詩はオンラインで閲覧可能

7. 授業時間外学習：英語での課題レポートと研究論文

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

背景資料：Byron, Glennis. *Dramatic Monologue* (Routledge, 2003)

9. その他：

科目名：英文学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM22301, 科目ナンバリング：LGH-LIT611J, 使用言語：英語

1. 授業題目：現代小説：ポストモダニズムのその後

2・授業の目的と概要：21 世紀に入り、批評家たちは英語圏の小説が前世紀に普及したポストモダニズムの様式や価値観から離れ、新たな表現形態へと移行しつつあると主張している。本講義では、ポストモダン小説とその後継作品との対比を示す二つの小説を比較し、この仮説を検証する。両作品は約 25 年の隔たりをもって出版された。まず、冷戦期における時間と歴史的意味の概念を探求するポストモダン小説の重要な例として、グラハム・スウィフトの『ウォーターランド』（英国 1983 年）を読む。続いて、同様に 21 世紀の文脈で歴史と記憶の概念を探求する、批評家から高

- 3. 学習の到達目標：**1: 英語の小説を読み、批判的に議論する。
2: ポストモダニズムと現代文学の歴史的・知的背景を検討する。
3: 21 世紀における人文科学と大衆文学の現状を批判的に考察する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: はじめに
- 2: サルマン・ラシュディ「預言者の髪」（短編小説 1981 年）
- 3: グラハム・スウィフト『ウォーターランド』（1983 年）
- 4: スウィフト
- 5: スウィフト
- 6: スウィフト
- 7: スウィフト
- 8: ジェニファー・イーガン『グーン・スクワッドの訪問』（2010 年）（2010 年）
- 9: イーガン
- 10: イーガン
- 11: イーガン
- 12: イーガン
- 13: ザディ・スミス「怠惰な川」（短編小説 2017 年）
- 14: 1980-2020 年の英国文学研究
- 15: 結論

5. 成績評価方法：プレゼンテーション 25%；中間レポート 25%；最終レポート 50%

6. 教科書および参考書：Graham Swift Waterland (Vintage)
Jennifer Egan A Visit from the Goon Squad (Knopf)

7. 授業時間外学習：英語によるレポートとクラス発表。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語文化論特論 I

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：大田 信良

コード：LM98813, 科目ナンバリング：LGH-LIT614J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：21 世紀の分断された世界／社会と英国カルチャー

2・授業の目的と概要：21 世紀の分断された社会・世界の範例をいくつか取り上げたうえで、資本主義世界のグローバル化における文化を、英国カルチャーに注目しながら学ぶ。具体的には、『ラスト・クリスマス』・『クレイジー・リッチ』・『沈黙の制裁』といった映像テキストを取り上げる予定である。ただし、それと同時に、教科書を用いながら、戦後日本の文化に存在したイングリッシュ・スタディーズをユーラシアの全体性においてとらえ直す。

3. 学習の到達目標：21 世紀の分断された世界／社会についてのイメージ・概念をさまざまなメディア・テキストを通じて体験することにより、グローバル化以降の資本主義世界にもつ英国カルチャーの意味を、理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODダクシヨン
- 2 分断された世界／社会とグローバル化以降の資本主義世界の文化
- 3 分断された世界／社会と英国
- 4 『ラスト・クリスマス』
- 5 分断された世界／社会と米国
- 6 『クレイジー・リッチ』
- 7 分断された世界／社会と韓国
- 8 『SKY キャッスル』
- 9 『国家が破産した日』
- 10 アジア通貨危機
- 11 『沈黙の大陸』
- 12 分断された世界／社会とロシア
- 13 『沈黙の制裁』
- 14 分断された世界／社会とインド——『スーパー30』
- 15 まとめと試験

5. 成績評価方法：リアクション・ペーパーによる平常点（40%） 期末試験（60%）

6. 教科書および参考書：教材は各回の授業で担当者が提示する。

7. 授業時間外学習：期末試験に備え、毎回の講義内容の復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学・英語学論文作成法特論 I

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM14205, **科目ナンバリング：**LGH-LIT616E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：大学院生のための英語学術論文執筆

2・授業の目的と概要：本講座は、大学院生が英語で学術課題を成功裏に執筆するために必要なスキルを習得することを目的としています。学期を通じて、学生は2本のエッセイを執筆しながら、学術論文の準備・草稿作成・編集に必要な段階を復習し実践します。毎週の授業では、ブレインストーミング、アウトライン作成、推敲、文体練習など、執筆課題に特化した具体的なスキルと戦略を扱います。また MLA 形式による引用スキルを習得し、必要に応じて APA 形式も扱います。

3. 学習の到達目標：本コース修了時までには、学生は以下の学習目標を達成できることを目指します：(1) 英語による短編エッセイ（導入部-本文-結論の形式）の準備と執筆 (2) 学術的引用・参考文献記載スキルの理解 (3) 学術的語彙と文体のスキル向上

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2: 課題1の準備・執筆・編集の週間段階（全授業にライティング演習を含む）
- 3: 課題1（継続）
- 4: 課題1（継続）
- 5: 課題1
- 6: ライティングスキル：表層的意味と含蓄的意味
- 7: ライティングスキル：フォーマルとインフォーマルな文体
- 8: ライティングスキル：引用と出典表記
- 9: ライティングスキル：参考文献
- 10: 課題2
- 11: 課題2（続き）
- 12: 課題2（続き）
- 13: 課題2（続き）
- 14: 課題2（続き）
- 15: まとめ

5. 成績評価方法：エッセイ1 40%エッセイ2 40%短いライティング演習（20%）

6. 教科書および参考書：Wayne C. Booth et al. The Craft of Research. 5th edition (University of Chicago Press, 2024)

7. 授業時間外学習：段階的にエッセイを書く

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学・英語学論文作成法特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM24205, **科目ナンバリング：**LGH-LIT617E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：大学院生のための英語学術論文執筆Ⅱ

2・授業の目的と概要：本講義は前学期のライティング講座の継続科目であり、学生が英語で研究論文・エッセイを書くためのスキルを習得することを目的としています。そのため、学期中に2つの長文課題に取り組むことで、論文などの人文科学分野における長文研究プロジェクトの執筆スキルに焦点を当てます。毎週、下書き段階から最終校正までの研究論文執筆の各側面について復習と実践を行います。修了時には、学術目的の英語ライティングにおいてより洗練された「表現力」を身につけていることが期待されます。

3. 学習の到達目標：修了時まで学生が習得すべき学習目標：

- (1) 人文科学分野における論文の様式を理解する
- (2) 学術的議論の書き方を深く理解する
- (3) 学術用語と文体のスキルを向上させる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 研究論文執筆入門
- 2 「主題から問いへ」
- 3 「問いから問題へ」
- 4 「問題から情報源へ」
- 5 「情報源との向き合い方」
- 6 「効果的な議論の構築」
- 7 「確固たる主張の形成」
- 8 「根拠と証拠」 [第1回課題提出期限]
- 9 「保証」
- 10 「情報源の統合」
- 11 「文体の修正」
- 12 「視覚的証拠の活用」
- 13 「要約と抄録」
- 14 「実践演習」
- 15 「最終課題提出期限」

5. 成績評価方法：第1回エッセイ 40%；第2回エッセイ 40%；追加筆記課題 20%

6. 教科書および参考書：Wayne C. Booth et al. The Craft of Research. 5th edition (University of Chicago Press, 2024)

7. 授業時間外学習：引用を用いた長文研究論文へとつながるライティング演習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学研究演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：大貫 隆史、講師（非）

コード：LM15405, 科目ナンバリング：LGH-LIT620E, 使用言語：日本語

1. 授業題目：研究発表の実践

2・授業の目的と概要：この演習では、英語圏の文学や文化的作品について、それをめぐるコミュニケーションの実相について、先行研究を踏まえつつ発表を行ってもらうことを目的とします。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 学術的な発表の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Presentations
3. Presentations
4. Presentations
5. Presentations
6. Presentations
7. Presentations
8. Presentations
9. Presentations
10. Presentations
11. Presentations
12. Presentations
13. Presentations
14. Presentations
15. Discussion

5. 成績評価方法：発表、参加度合い、レポートを総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書：・渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書）→全員購入してください
・資料などを他に配布します

7. 授業時間外学習：演習内で取り上げられた作品や先行研究などを、読んだり調べたりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は、原則として、英文学専修所属の学生のみ履修できます。ただし、本演習に関連するトピックで論文を書く場合などは、履修を認める場合があります。

科目名：英文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：大貫 隆史、講師（非）

コード：LM25406, 科目ナンバリング：LGH-LIT621E, 使用言語：日本語

1. 授業題目：研究発表の実践（発展的）

2・授業の目的と概要：この演習では、英語圏の文学や文化的作品について、それをめぐるコミュニケーションの実相について、先行研究を踏まえつつ発展的な発表を行ってもらうことを目的とします。

3. 学習の到達目標：（1）学術的な発表の発展的な形式について理解を深める
（2）コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
（3）英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Presentations
3. Presentations
4. Presentations
5. Presentations
6. Presentations
7. Presentations
8. Presentations
9. Presentations
10. Presentations
11. Presentations
12. Presentations
13. Presentations
14. Presentations
15. Discussion

5. 成績評価方法：発表、参加度合い、レポートを総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書：プリントなどを配布します

7. 授業時間外学習：演習内で取り上げられた作品や先行研究などを、読んだり調べたりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は、原則として、英文学専攻分野所属の学生のみ履修できます。ただし、本演習に関連するトピックで論文を書く場合などは、履修を認める場合があります。

科目名：英語文化論研究演習 I

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：大貫 隆史

コード：LM15302, **科目ナンバリング：**LGH-LIT624J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：Raymond Williams, People of the Black Mountains I

2・授業の目的と概要：文化や文学の理論家として広く知られるレイモンド・ウィリアムズは、公刊されたもので六編の小説の書き手であり、じつは、小説の執筆にもっとも大きなエネルギーを費やしていたとされています。彼の死後刊行小説 People of the Black Mountains I を、この演習では分析していきます。これにより、ウィリアムズの言う、「フォーム」や「感情の構造」とは何か、よく理解できるようになり、それは、他の作品をめぐる分析にも大いに役立つものと思います。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論してきます。

3. 学習の到達目標：(1) 小説の形式について実践的な理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. People of the Black Mountains I (1)
3. People of the Black Mountains I (2)
4. People of the Black Mountains I (3)
5. People of the Black Mountains I (4)
6. People of the Black Mountains I (5)
7. People of the Black Mountains I (6)
8. まとめ (1)
9. People of the Black Mountains I (7)
10. People of the Black Mountains I (8)
11. People of the Black Mountains I (9)
12. People of the Black Mountains I (10)
13. People of the Black Mountains I (11)
14. ディスカッション
15. まとめ (2)

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・レポート 50%

6. 教科書および参考書：Raymond Williams, People of the Black Mountains (Chatto and Windus)

7. 授業時間外学習：授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語文化論研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：文学部教官

コード：LM25303, 科目ナンバリング：LGH-LIT625J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アカデミック・スキルとしての精読

2・授業の目的と概要：英語圏の文学研究、とりわけ新批評以降のそれにおいて、精読（Close Reading）はあらゆるアプローチに共通する基本的な技術として位置づけられてきました。批評理論の優れた入門書が数多く出版されているのに比べると、精読のやり方をわかりやすく説明している書籍や論文は限られているように思われます。個人のセンスの問題であるかのようにみなされることさえあるようですが、研究のもっとも基礎的な手法は誰にでもわかる仕方の説明されるべきでしょう。Dan Sinykin と Johanna Winant が編集した Close

- 3. 学習の到達目標：**(1) 「精読」を行っている論文を読み、その議論を追うことができるようになる。
(2) 学んだ知識をもとに自分でも「精読」を実践できるようになる。
(3) 文学研究の方法と意義について意識的に考えることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Orientation
2. Introduction: What Close Reading Is
3. Introduction: What Close Reading Does
4. Introduction: What Close Reading Has Been
5. Near Monstrous Fidelity: Erich Auerbach on Virginia Woolf
6. Touching, Reading: Eve Kosofsky Sedwick on Henry James
7. A Pedicure: Angela Leighton on Alice Oswald
8. Case Study by Instructor
9. Case Study by Students (1)
10. Case Study by Students (2)
11. Close Reading Drama: Eric Friffiths on William Shakespeare
12. The Poet's Choices: Helen Vendler on John Keats
13. What Beauty Hides: Toni Morrison on Marie Cardinal
14. Grist for the Mill: Christopher Ricks on Cliche
15. Summing-Up

5. 成績評価方法：発表と授業参加 70%
レポート 30%

6. 教科書および参考書：Sinykin, Dan, and Johanna Winant. Close reading for the twenty-first century. Princeton UP, 2025.

7. 授業時間外学習：各回で扱う箇所は必ず事前に学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：